

兵庫縣産コガネムシ研究小史

高橋 寿郎

江崎博士に依ると動物学、昆虫学が日本で独立したのは明治以降のことであつて、それ以前では昆虫の研究は博物学の中に包含されており、その博物学が本草学から分化し物産学や名物学という様になつたのは江戸時期、先ず元祿からといえるとの事である。

コガネムシ科のものが一番始めに図説されたのは貝原益軒著“大和本草”に於ける“カブトムシ”であろう(宝永六年、1709 江崎博士、1947 & 1952 三宅博士、1919)、さらに天保11年9月26日(1840)、万香亭(前田利保)、資生圃(馬場大助)、四季園(佐橋節翁)、楽圃(飯室昌羽)、武蔵石寿、清雅等のつくつた“蛇蝨射工図説”と云う本には上記の人達が持寄つたコガネムシを関根雲停が写生して居る。記する所凡そ30種とある。(白井、1943、三宅、1919、江崎、1952)。

江戸末期に洋学の知識が入つて来たので色々の影響を与える様になつた、しかし当時活躍して居たC. von LINNÉの動植物の分類と命名に関する業績はまだ伝わつて居ない。やがてLINNÉの高弟 Thunberg が来て昆虫を採集して帰つて居るがその影響はほとんどなかつたとの事である(日本の昆虫で始めて学名の与えられたのは Thunberg が採集して彼自身が発表したものである)、Thunberg が帰国後45年を経て発表された日本動物誌(Fauna Japonica, 1722~23)の出版された年(1823) Siebold が日本にやつて来た。それ以後次々と日本を訪れる欧米人も多くなり、日本の昆虫学の発展が之等欧米人に依つて為される様になつた。兵庫すなわち神戸も兵庫の港として古く開けて居るので欧米人の来訪者の多くが兵庫には立寄り、其の関係で兵庫に関する昆虫の研究も日本の昆虫の研究とほぼ全じ位の時代から知られて居る事になる。

Thunberg にしても1776年3月4日長崎を出発4月6日に兵庫に上陸、8日に西宮を経て大阪に致つて居り、帰途は全年5月25日江戸を出発、6月15日大阪を出て兵庫を経て瀬戸内海を航行して居る、帰途は兵庫には上陸して居らぬ様である。勿論其の当時の兵庫は現在の神戸市とは全く似て居らず、当時の産出種が現在の産出種と全じ状態にあるとは思われないが金龜子虫科のみについても兵庫県産のもの歴史は可成り古い事になる。大体明治中頃までが欧米学者の研究された時代で、日本昆虫学研究の最初の発表は岩田博士(1953)に依ると佐々木忠次郎博士の明治19年発表の“カイコノウジバエのmicrotype-eggの生活史の研究”

(1866)と云う事である。動物学雑誌の創刊が明治21年(1838)にて昆虫世界は明治30年(1897)である。其の頃より日本の昆虫学も次第に軌道に乗り始めた。県下では芝川又之助氏は1903年頃より須磨、甲東村大市を中心に採集されて居られ、其の採集目録も“柴水遺稿”の別巻として発表されて居られるし、標本類は宝塚昆虫館に保存されて居られるとの事である、同じ頃鈴木元次郎、井口宗平氏などが採集されて居られるがコガネムシ科に就いてのまとまつた発表はない様である。また有名な John E. A. Lewis 氏が官吏生活を退官されて永住の地として此の神戸に来られたのが明治42年(1909)で其の後約20年間亡くなられるまで神戸で住まはれ各方面にも採集に出かけられ、その採集の主なものゴキムシ、コガネムシ、ハネカクシが主体であつたのであるが自らは発表された事がないので文献を通じては余り知られて居らないが採集品の全部はそれぞれ専門家へ送られて研究を依頼され氏の採集になる標本はBritish Museum やBerlinのZoologisches Museum に保存されて居るとか、Arrowの研究発表には氏の採集品に依るものがある。

大正に入つて新島、木下阿氏のコガネムシに関する立派な業績が発表された、其の中には県下のコガネムシも取扱われて居るが此の業績は邦人に依る初めての日本、県下のコガネムシ研究であろう。

昭和に入つて可成りの調査をして居られた戸沢信義氏が“箕面産昆虫目録”を発表されて居られ(1932)、其れに引続き、関、北村氏などの調査が発表された、沢田氏の日本のコガネムシ類の再調査にも県下産は取扱はれて来た、さらに米谷氏、筆者などの調査に依り現在に致つて居る。しかしながら今迄の調査の範囲が兵庫といつても現在の神戸市の事にて其の他に於いても神戸市中心のみであつて県下という事になると其の大部分が未調査地にて近年水上市郡のみは山本義久氏を中心に次第に明らかになつたが他の地方は之からの部分が多い、部分的には氷ノ山などは逐次調べられて居る。

このように県下のコガネムシ研究の歴史は古いにもかかわらず全般には其の一部しか知られた居らず今後の大いなる努力が必要とされる所である。

以下文献について其の研究を記して見たいが貧弱な筆者の文献からの調査であるから可成りの脱落、誤りもある事と思われる其の点は今後の調査に依り逐次完

成に近づきたいと思う。

末筆ながら文献に就いて色々御無理を御願ひ致して居ります西京大学、中根猛彦氏及び和田義人君に厚く御礼申し上げます。

① 1875; CHAUS O. WATERHOUSE: On the Lamellicorn Coleoptera of Japan Trans. Ent. Soc. pp. 71~116

前文にも書いて置いたように日本の昆虫で一番始めに学名の与えられたものは Carl Peter Thunberg に依る "Dissertatio Entomologica novae insectorum species sistens 1781~1791" の中に見出される、甲虫類に就いても *Coccinella japonica* (ヒメカメノコテンタウ) がある由である(江崎博士、1952)、同じく Thunberg に依り "Museum Naturalium Academiae Upsaliensis Dissertatio, pars. 4, pp. 44~58, pl. ref. p. 57, nota 10, fig. 3, 1784" に日本最初の天牛 *Oberea japonica* が発表されて居る。其の後 Franz v. Siebold (1822~29 8 1859~62), Gaschkevitch, Elise Gaschkevich, Georges Lewis 1864~1872 & 1880~1881), J. J. Rein などの諸氏が日本を訪問採集をして帰り其れに基づく研究が次々と現れるに至つた。日本産のコガネムシに就いては恐らく Victor Ivanovich de Motschulsky (1810~1871) の研究が始めてではないかと考えられる。

Motschulsky の論文は1854~1855年下田に来て居た Putiatin 提督と共に同地に居た Goschkevitch の採集品及び其の後函館駐在のロシア領事となつた Goschkevitch の夫人 Elise Gaschkevitch の採集品に基づくもので当時の状況から兵庫附近産のコガネムシは未だ取扱はれて居なかつたのではないだろうか? 兵庫産のコガネムシを取扱つた研究は Georges Lewis に依る採集品に基いて発表された本論文が最初であろうと考えられる。

其の意味に於いて兵庫県産研究史上重要な文献の一つである。

産地は大体大阪、兵庫、長崎が多い、が之は当時の状況としては止むを得ざるものであると思われる。

記録された種は114種(内新変種1種)であり他に1新属が記載されて居る。114種の内55種が新種として発表されて居るが其の後の研究に依り現在の分類に依ると新種の内6種は Synonym として整理され、2種は他種の変種として扱われ、1種は他種の亜種として扱われて居る。属名の現在変更されて居るものは可成りの数に上る。記載のない種名のみのもも若干ある。また現在では独立の科として取扱われて居る Geotrupidae, Trogidae に新種4種内1種(Synonym)、記載3種もふくまれて居る。

日本産として疑わしいものもある。兵庫あるいは神戸と明らかに記録されて居るのは15種である、普通種については産地を掲げてないので兵庫産は之以外にある事は当然である。

p. 73、新種 *Caccobius brevis*、産地に兵庫、大阪とあり、砂地で得たとある。

Catharsius ochus MOTSCHULSKY, LEWIS (1895) に依り *Copris* 属に変更され現在に致つて居る。兵庫は産地として記録あり、大変多いとある。

p. 75, *Copris acutidens* MOTSCHULSKY (ゴホンダイコク)、兵庫、大阪の砂地において普通とある。

p. 76, *Onthophagus japonicus* HAROLD (ヤマトエンマコガネ) 兵庫及び大阪、摩耶山麓に多くとあるが現在多いか否かわからない。

p. 78、新種、*O. nitidus*、兵庫、長崎。腐肉より及び腐肉採集法で得たとある。

p. 79、新種、*O. ocellato-punctatus*、兵庫海辺にて得たとある。

p. 80、新種、*Aphodius major* 兵庫。本種は *A. sorex* FABRICIUS (1792) 及び *A. brachysomus* SOLSKY (1874) のそれぞれ Synonym と見なされて居るが前種の日本に産するのは疑わしいので一応ここでは *A. brachysomus* SOLSKY の Synonym と見て置く。

p. 89、新種、*A. rufangulus*、長崎、兵庫、青森。普通とある。が本種は現在では *A. pusillus* HERBST の亜種として取扱われて居る。

p. 91、新種 *A. atratus*、産地、長崎、兵庫。(クロツヤマグソコガネ)

p. 92、新種、*A. rugosostriatus* (スズマガグソコガネ) 神戸にて1871年1標本のみ得たとある。

p. 94、新種、*Psammodytes convexus* (セマルケシマガグソコガネ) は神戸の砂丘にて1871年5月に2標本を得たとある。

p. 100、新種、*Hoplia moerens* (ヤマトアシナガコガネ)、産地に兵庫、長崎とある。

p. 101、新種 *Serica boops* (ヒゲナガビロウドコガネ) 6月の終りに摩耶山で夕暮に飛翔中を採集するとある。

p. 106, *Melolontha japonica* BURMEISTER (コフキコガネ) 産地に横浜、兵庫、長崎。

p. 111、新種 *Anomala bubicolis* (ナラノチャイロコガネ) 産地、長崎、兵庫。

② 1887; SCHONFELDT, Cat. Coleopt. Japan, p. 79 *Valagus angusticollis* WATERHOUSE, Hiogo の記録がある。属名は *Nipponovalagus* が現在使用されて居る。

③ 1879; L. v. HEYDEN, Die coleopterologische

Ausbeute des Prof. Rein in Japan 1784~1875
Deutsche Entomologische Zeitschrift, **X**XIII,
Heft. **II**, pp. 321~365.

本篇は Dr. Johann J. REIN の日本の採集品の中甲虫類のみを同定した報文である。Dr. REINは明治 8、9年の2年間日本に滞在各地を旅行採集につとめて居られる、其の内神戸で一番多くの種を得て居られる、コガネムシに就いては次のような種が兵庫産として報告されて居る。

p. 339, *Onthophagus atripennis* WATERHOUSE コブマルエンマコガネ

p. 342, *Heptophylla picea* MOTSCH. ナガチヤコガネ 8_{EX.} von Hiogo

Hoplosternus japonicus BURMEISTER コフキコガネ
3 parchen von Mino und Hiogo

本種に就いては現在属名は BURMEISTER のつけた *Melolontha* が使用されて居る。この学名に致るまで若干の変化があるのでここに其の経過に就いて少々記して置く。すなわち BURMEISTER は *Melolontha japonicus* としてコフキコガネを記載した。HAROLD は *Hoplosternus japonicus* を発表した、これはオホコフキコガネについてであると考えられた為めいささか混乱が来た。WATERHOUSE は *H. japonicus* HAROLD をオホコフキコガネに採つた。MOSER は *M. japonicus* BURMEISTER を *Hoplosternus* 属に移した。其れ故 *H. japonicus* HAROLD を異物同名として *H. haroldi* MOSER を与えた。しかしながら HAROLD は *H. japonicus* HAROLD と *M. japonica* BURMEISTER と同種である事は認めて居た。

ARROW は *H. japonicus* HAROLD を *M. japonica* の同物異名としてオホコフキコガネには *M. frater* と命名記載した。其れ故本種は BURMEISTER の *M. japonicus* = HAROLD の *H. japonicus* = MOSER の *H. haroldi* と総て同一のものである。

Phyllopertha conspurcata HAROLD カタモンコガネ
現在 *Anomala* として取扱つて居られる。

Anomala (Euchlora) cuprea HOPE ドウガネブイブイ Mino, Hiogo, Echizen, Kioto, Kiushiu.

p. 343; *A. rufocuprea* MOTSCHULSKY ヒメコガネ
Kioto, Echizen, Hiogo, Mino.

A. testaceipes MOTSCHULSKY スヂコガネ Hiogo

p. 344; *A. costata* HOPE オホスヂコガネ

p. 345; *A. orientalis* WATERHOUSE セマダラコガネ
Mimela lucidula HOPE コガネムシ

学名は現在 *A. splendens* GYLLENHALA が用いられて居る。

Popilia japonica NEWMAN マメコガネ

p. 346; *Rhomborrhina unicolor* MOTSCHULSKY
アヲカナブン

R. japonica HOPE カナブン

p. 347; *Cetonia submarmorea* RURM. Hiogo
(LENZ) とあるが本種は *Protaetia orientalis*

GORY et RECHERON と同一種である。*Glycyphana jucunda* FALDERM.

箕面、越前附近、兵庫、九州が産地として出て居る。この種も現在では *Oxycetonia jucunda* FALDERMANN として扱われて居る。

④ 1895; G. LEWIS; On the Lamellicorn Coleoptera of Japan, and notices of others, Ann. Mag. Nat. Hist. Ser. 6, **XVI**, pp. 374~408.

WATERHOUSE の研究発表後 20年程経て再び日本の Lamellicorn に関する G. LEWIS の貴重な発表が行われた。本篇に取扱われた種は全部で 75種其の内新種は 23種記載されて居る。新種の内 4種は Synonym として整理される。学名も現在の分類としては可成り訂正を要すると思われる。新属が 3属つくられて居る。

兵庫、神戸産のものは次の 10種記録されて居る。

p. 377, *Copris ochus* MOTSCHULSKY ダイコクコガネ
島原、神戸、日光、函館。"Abundant on sandy areas" とある。

p. 379, *Onthophagus ocellatopunctatus* WATERHOUSE
アラメエムマコガネ、兵庫、1871年8月とある。

p. 381, *Aphodius variabilis* WATERHOUSE クロモンマダソコガネ
長崎、神戸、横浜、普通とある。学名は *A. nigrotessellatus* MOTSCHULSKY となるべきである。

p. 384, *Rhyssenus asperulus* WATERHOUSE ヤマトツマダソコガネ
長崎、神戸、横浜、日光。学名は *Trichorhyssenus asperulus* WATERHOUSE となるが分布が少々おかしい。

p. 384, *Psammobius convexus* WATERHOUSE セマルケシマダソコガネ
神戸、京都、新潟、札幌。学名は *Psammobius convexus* WATERHOUSE となる。

p. 385, *Bolboceras nigroplagiatum* WATERHOUSE
ムネアカセンチコガネ 東京、横浜、神戸。非常に普通であるとあるが現在では余り多くない。今では Family Geotrupidae として別の科に取扱われる。

p. 400, *Granida albolineata* MOTSCHULSKY シロスヂコガネ
長崎、神戸、新潟、秋田。

Phyllopertha conspurcata HAROLD カタモンコガネ
長崎、兵庫、萩、東京。普通。現在 *Anomala* として取扱う。

p. 401, *Anomala difficilis* WATERHOUSE 神戸、

日光、中善寺。本種は *A. lenzi* OHAUS と同一種である。

p. 402; *A. pubicollis* WATERHOUSE ナラノチヤイロコガネ 長崎、神戸、宮下、日光、横浜。

⑤ 1915; M. CURTI, Beiträge zur Kenntnis der paläarktischen Cetoniden. I. (Col.) Entomologische Mitteilungen, IV, pp. 17~26.

本報文で日本産1新種の記載がある。

pp. 21~22; *Cetonia* (*Eucetonia*) *bodemeyeri* CURTI

産抽に日本(神戸)とある、この種は其の後採集された事も無いし、いかなる種かはつきりわからない。原記載より判断して筆者は *C. roelofsi* と同一種と見て居る。

⑥ 1913: ARROW; Notes on the Lamellicorn Coleoptera of Japan and Description of a few new Species, Ann. Mag. Nat. Hist. 3, ii, pp. 394~408.

本文で日本産コガネムシとして109種の種名が掲げてあり其の内11種の新種の記録がある。神戸産として以下の種の記録がある。

p. 398; *Autoserica castanea* ARROW

産地として日本神戸、北支那、天津、上海、福州が掲げてある。本種は本文で新種として記載されたものである。神戸産のものは John E. A. Lewis 氏が採集されたものである(18—VI—1912)。日本に於いて本種は極く普通であると記してあるが具体的な産地は神戸のみである。

pp. 400~401; *Melolontha frater* ARROW
本種も本文に於いて新種とされたものである。産地としては南部日本、奈良、京都、紀伊和田、神戸6、7月とある。別に詳しい産出状況は記してない。

pp. 404~405; *Protaetia hondana* ARROW

本種も新種の記載である。産地として神戸(7月, 1913)、種子島(5月, 1913)、広島(JANSON 採集)が掲げてある、上記の内2頭は J. E. A. Lewis 氏の採集になるものである。type の標本は神戸産の雌及び種子島産の畸形が大英博物館に保存されて居る。しかしながらこの種は1938年に今西芳之氏に依り *P. lenzi* HAROLD (1876) の雌に対して与えられた Synonym である事が飼育の結果明かにせられた。

⑦ 1923; 新島善直、木下榮次郎; コガネムシに関する研究報告(第二) 我国に産するコガネムシ及び其の分布、北海道帝国大学農学部演習林研究報告, vol. 1, No. 2

新島、木下両氏の“コガネムシに関する研究”の第2及び第3 北大農学部演習林研究報告第4巻は我国の

コガネムシを研究する者にとっては缺く事の出来ぬ貴重な文献であるが兵庫県産の標本を取扱われたのは極めて少く文中兵庫などの外国文献に依る兵庫県産の紹介はあるが両氏自身の兵庫県産の標本は次のように播磨産の數種を記録するのみである。

p. 61; *Melolontha japonica* BURM., p. 66; *Granida albolineata* MORSCH., p. 68, *Polyphylla laticollis* LEW., p. 77, *Hoplia communis* WATERH., p. 122, *Phyllopertha diversa* WATERH., 本種は *Anomala* 属である。p. 128, *Phyllopertha tanbaensis* NUJIMA et KINOSHITA 本書で新種として発表されたものであるが *Anomala orientalis* WATERH. の黒化型で独立種として取扱つて居られない。

p. 156, *Rhombrina japonica* HOPE カナブン

⑧ 1931; 兵庫県博物学会誌

兵庫県博物学会が創立されて其の会誌が創刊されたのは昭和6年1月(1931)の事である。

この会誌は第20号迄続いたが昭和16年其れ以後は廃刊になった。

会誌上には昆虫関係の記事は極めて少く、この事は県下の昆虫研究者の少い事と昆虫相の未解決の部分の大きい事がわかる、コガネムシ関係のものをひろつて見ると次の如くである。

(1934) 第7号、神戸支部、布引、摩耶昆虫採集目録 pp. 62~68. 神戸支部の布引、摩耶採集記録で指導は故中林湯次氏、昭和8年7月2日、1日の採集結果であるから目星しいものはヒメサクラコガネ位である。

(1934) 第7号、神戸支部、昆虫夜間採集 pp. 76~77. 神戸支部の再度山奥二十度渡しての昭和8年8月15日の夜間採集結果、指導故中林湯次氏、珍しいものなし。

(1939) 第17号、昆虫箱の中から、pp. 39~41. ヒメカンシヨコガネが赤塚山神戸商大下で11月頃多数採集された記録、秋の根本に冬眠して居た。

(1939) 第18号、神戸産甲虫雑記、pp. 51~53. ギイココガネを舞子で採集した事を発表したのが本種は古くから兵庫の記録があるので別に珍しい事はない。(LEWIS)

(1940) 第19号、神戸産甲虫雑記(II), pp. 85~87. シロテンハナムグリとシラホシハナムグの区別点と分布状況に就いて記した。

⑨ 1933; 関公一、御影町附近産の甲虫目録(其の一)、昆虫界、I、3, pp. 251~253.

初めに御影町を中心として六甲、摩耶山、芦屋なども含むとあるが記載されたのは38種。

注目すべき種はオオセンチコガネ、コカブトムシ、

ルリカナブン (仮称) *Rhomborrhina* sp. と有るのはカナブンの色彩変化の1種と思われる。学名も訂正すべきものがある。アカビロウドコガネ *Autoserica japonica* MOTS. は *Aserica castanea* ARROW の学名が正しい。*Autoserica japonica* は *Serica japonica* (ビロウドコガネ) である。

⑩ 1934, 関公一; 大阪・神戸附近のコガネムシ昆虫界、Ⅱ、9、p. 30

本目録は兵庫県東南部及び大阪府の北部の一部を合した地域での産を記したもので11亜科69種記載せられて居る。この内注目すべきはクロホシビロウドコガネのみであり、このクロホシビロウドコガネはヒゲナガビロウドコガネと非常に似て居るのでどちらの事かはつきりしない。

本目録より抹殺すべきものに次の如きものがある。

アオダロカナブン *Rhomborrhina nigra* SAUNDER 本種は内地に産せず、ミドリハナムグリ *Liocola speculifera* SWAATZ はシロテンハナムグリの色彩変化型であろう。

Geotrupes purpurascens MOTSCHULSKY ムラサキセンテコガネは *G. auratus* MOTSCHULSKY オオセンテコガネ (キンイロセンテコガネ) と同一種である。

⑪ 1935; 矢野文彦、ムネアコガネ (*Bolbocerosoma nigroplagiatus* WATERHOUSE) 六甲山に多産す。昆虫界、Ⅲ、17、p. 329.

ムネアコガネの六甲山に産する事を報じたもの。

⑫ 1936; 野村全、分布二件昆虫界、Ⅳ、25、p. 208

キョウトアオハナムグリを本山村野寄山林にて採集した記録 (28—Ⅶ—1935)。

⑬ 1937; 沢田玄正、サツマコフキコガネに就て日本の甲虫、Ⅰ、2、p. 102

Melolontha satsumaensis N. et K. サツマコフキコガネが J. A. E. LEWIS 氏に依り神戸で採集されて居る(2頭)との記録であるが後に野村氏に依り(1951)多分 *M. japonica* でないかとなつて居る。

⑭ 1938; 北村達明、兵庫県出石郡神美村で採集した蝶とコガネムシ 昆虫界、Ⅴ、43、p. 634.

表題の如く出石郡神美村産のコガネムシ科29種記録あり。キンイロセンテコガネはオオセンテコガネである。

⑮ 1938; 北村達明、須磨附近コガネムシ科目録 昆虫界、Ⅴ、44、p. 717

神戸附近産コガネムシ11亜科、51種の記録であるが注目すべきはコカブトムシ、アシナガコガネ。同目録より抹殺すべきものアオシラホシハナムグリこれはシロテンハナムグリの色彩変化型と思われる。

Anomala difficilis WATERHOUSE (ツヤコガネ) と

云うのは多分 *A. lucens* BALLION (ツヤスヂコガネ) の事と思われる。*A. motschulsky* HAROLD は *A. rufocuprea* MOTSCHULSKY と同一と思われる。*Liocola brevitarsis* LEWIS シラホシハナムグリは *Portaetia orientalis* GORY et PERCHERON シロテンハナムグリも含くんだものであろうと思われる。*Auotserica japonica* は *Serica* 属となるがアカビロウドコガネと云う名前から(勿論 *Serica japonica* にも赤褐色のものが多いのであるが) *Autoserica castanea* ARROW の事であらうと思われる。

⑯ 1938, 米谷正司; キョウトアオハナムグリの雌雄に就いて 昆虫界、Ⅵ、47、pp. 94~97.

キョウトアオハナムグリ雌雄の記載であるが材料として多井畑、本山村産の標本を使用して居る、学名は *Protaetia lenzi* HAROLD (1876) となるべきである。

⑰ 1938; 植村利夫、淡路島及び鳴門公園の昆虫、昆虫界、Ⅵ、48、p. 159

コガネムシ科のものは1種のみ記録である。

⑱ 1938; 沢田玄正、日本産アシナガコガネ 亜科、日本の甲虫、Ⅰ、1、pp. 33~48, pl. V, VI. 日本産アシナガコガネ亜科の概説であるが兵庫産に關しては *Hoplia communis* WATERHOUSE アシナガコガネ (六甲山、矢野) のみである。

⑲ 1938; 今西芳之、キョウトアオハナムグリの学名に就て、関西昆虫雑誌、Ⅴ、p. 23

本報文に於いて今西氏は飼育に依り従来 *Potosia nitidiscutellata* NIJIMA et KINOSHITA, *Protaetia hondana* ARROW の2種が *Protaetia lenzi* HAROLD と同一種である事を証せられた。本報文に用いられた材料は兵庫県川辺郡東谷村妙見山西方の小山にて得られて居る。

⑳ 1938; 原政敏、但馬神鍋山附近の甲虫、浪速高校尋常科博物同好会々誌 No. 13, pp. 8~15. 表題の如く神鍋山附近の甲虫目録であるがコガネムシ科は種類も少なく普通種ばかりである、ただオオセンテコガネの採集された記録がある。

㉑ 1939; 沢田玄正、*Apogonia amida* LEWIS の分布 日本の甲虫、Ⅲ、1、p. 46

Apogonia amida LEWIS の神戸産標本を検した事が記してある。

㉒ 1940; 安谷英也、蟬結びその他雑題、昆虫界、Ⅷ、73、p. 189

高取山に於けるシロテンハナムグリとシラホシハナムグリの分布状況に就いての記載あり。

㉓ 1940; SAWADA, A Revision of the Melolonthine Beetles of the Genus *Apogonia* in the Japanese Empire Rep. Jour. Agr. Sc. Tokyo

p. 273, 'Apogonia' amida LEWIS, Kobe (8. ex. 24-Apr. 1937, M. UNO) (1) 昆虫世界, 1937

② 1940; 高橋寿郎、神戸再度山附近産の甲虫目録 (5) 昆虫世界, XLIV, 514, p. 169

(6) 昆虫世界, XLIV, 515, p. 202

再度山を中心とした甲虫の目録であるが訂正すべき点が次のようである。コブマルエンマコガネの学名は *O. atripennis* WATERHOUSE とする。ユミガタエンマコガネはマルエンマコガネ *O. viduus* HAROLD と変る。Mimela, Phyllopertha は Anomala とする。クリイロコガネはマルオクロコガネ。

③ 1941; SAWADA, A Revision of the Ruteline beetles of the Genus Phyllopertha in the Japanese Empire, Nippon no Kochu, IV, 1, pp. 42-58, pl. II-V.

日本産 Phyllopertha 属の報文であるがこの属は現在では Anomala として取扱われて居る。Phyllopertha irregularis WATERHOUSE (Mt. Rokko in Hyogo), p. 48, P. diversa WATERHOUSE (Kobe), p. 54, P. conspurcata HAROLD (Kobe) 日本産 Protætia 属の種に就いて記す (I) 昆虫, XV, 2, p. 75

④ 1941; 入幡英夫、日本産 Protætia 属の種に就いて記す (I) 昆虫, XV, 2, p. 75

西日本産 Protætia 属の種の記載であるが神戸、兵庫産の材料は次の1種のみしか使用されて居ない。すなわち Protætia orientalis GORY et PERCHERON シロカテナムグリ(神戸)。

⑤ 1941; 増田猛、橋本直也; 一中附近の昆虫(謄写版)

本書は昔の神戸一中(現在の神戸高等学校)博物学会が学校を中心としての昆虫相をまとめて謄写版で1冊にしたもので甲虫之部と蝶之部の2つに分れて居る、最初に摩耶山昆虫目録と記してあるが調査は大抵摩耶山の一部及び其の西方の部分である。この辺は面白い採集地であると思われ今なお珍しいものがとれて居るようである。コガネムシ類は54種記録されて居る、学名の訂正もあるがそれはここに一一記す必要もないと思われるので省く。サツマコフキコガネは間違だと思ふ。オオセンチュウコガネ、ムネアカセンチュウコガネの産する事は注意して良いと思う、其の他は割合普通種である。Anomala difficilis は A. lucens の事と思われる。Autoserica japonica は A. costanea の事と思われる。

⑥ 1941; 高橋寿郎、神戸附近のコガネムシに就いて記す 昆虫界, IX, 86, p. 217

神戸市を中心としてのコガネムシに就いて記した。

取扱つた種は11亜科、34属、69種、1亜種、8変種、2異常型であるが現在では独立の科として取扱つて居る Geotrupinae と其れにふくまれる2属、2種が入つて居る。同定の間違い、学名の訂正を要するものなど可成りある。すなわち Onthophagus fodiens は

O. lenzi に、*O. viduus* は *O. atripennis* に、*O. yumigatanus* は *O. viduus* に *Aphodius variatilis* は *A. obsoletoguttatus* に夫々訂正を要する。*Anomala motschulsky* は *A. rufocuprea* と同一種と考えて居る。*A. albopilosa* の同定は *A. viridana* の間違い。Genus Phyllopertha 及び Mimela は夫々 Genus Anomala にふくまれている。*Melolontha satsumaensis* は神戸に産しない。*Liocola brevitarsis* は *Protætia brevitarsis* LEWIS と訂正。subsp. *crassa* HAROLD は日本に産しないように思う。Genus Potosia は Genus Protætia に訂正。

⑦ 1942; YAWATA; Notes on the Glaphyrinae of Japan with descriptions of a new Genus and two new species; Trans. Kansai Ent. Soc. XII, 1, pp. 33-37.

Anthypna pectinata LEWIS の産地が Osaka, Near, Hyogo となつて居るがはつきりした意味がわからない。本種は県下で採集された記録は今の所他に無いように思う。

⑧ 1942; 高橋寿郎、神戸産ハナムグリ亜科雑記、昆虫世界, XLVI, 542, pp. 306-308.

カナブンの色彩変化型、キョウトアオハナムグリの神戸に於ける分布を記す、学名は *Protætia lenzi* HAROLD と訂正する。シロテンハナムグリとシラホシハナムグリの産地を述ぶる。これも学名は *Protætia orientalis* GORY et PERCHERON, *P. brevitarsis* LEWIS に訂正する。

神戸産としてクロカナブンを追加、ポウデイマイエルハナムグリは *Cetonia roelofsi* と同一種ではないかと思う。*Cetonia roelofsi* HAROLD ab. *nitidula* REITTER は神戸産としては産しないと思うので取消して置く。

⑨ 1943; 高橋寿郎、神有沿線甲虫相 (6) 昆虫世界, XLVII, 548, p. 102

(7) 同, XLVII, 549, p. 133

神有沿線の甲虫目録であるが訂正すべき点は次のようである。ユミガタエンマコガネはマルエンマコガネと同一種。*O. kogatanus* MATS. はコブマルエンマコガネと同一種、コブマルエンマコガネの学名は *O. atripennis* WATERHOUSE に訂正。*O. viduus* HAROLD はマルエンマコガネの事、*O. ibonus* MATSUMURA はコブマルエンマコガネと同一種。Mimela, Phyllopertha は Anomala 属として扱う。クリイロコガネは

マルオクロコガネに改める。

- ㉔ 1943; 高橋寿郎、神戸産糞虫に就いて、昆虫界、
XI, 112, pp. 301~304.

神戸及び神戸附近の糞虫類の発表であるが現在では Subfamily Troginae & Geotrupinae は独立の科として取扱われて居る。Onthophagus chuzenjianus は *O. ater* と同一種。*O. ibonus*, *O. kogatanus* は共に *O. atripennis* と同一。*O. atripennis* と記録したものは *O. viduus* の事である。*O. viduus* コブマルエムマコガネは *O. atripennis* と学名を改めねばならぬ。*O. yumigatanus* は *O. viduus* と同一種である。

- ㉕ 1949; 高橋寿郎、クロハナムグリ分布二題、新昆虫、II, 12, p. 420

クロハナムグリの異常型 *ab. nagoyana* TAKAGI 及び変種 *var. sieboldi* SNELLEVOAO VOLLENHOVEN を夫々神戸から記録したが前者の方は1♀、後者の方も1♀と訂正して置く。

- ㉖ 1951; 高橋寿郎、クロアシナガコガネについて、兵庫生物、I, 5, p. 95

古く WATERHOUSE に依り記録されてより神戸では記録のなかつたと思われる *Hoplia moerens* WATERHOUSE の県下に於ける多産地と思われる青野ガ原を紹介し其の形態の記載をなした。

- ㉗ 1951; 高橋寿郎、神戸産クロコガネ属甲虫に就いて、兵庫生物、II, 1, p. 25

神戸産クロコガネ属5種を記録した。

- ㉘ 1952, 高橋寿郎、神戸産ハナムグリ亜科甲虫に就いて、兵庫生物、II, 2, p. 101

神戸産ハナムグリ亜科6属、12種、2変種、2異常型の記録を為した。

- ㉙ 山本義丸; 郷土氷上郡の昆虫相について、柏原高校生物研究会誌No. 7, pp. 8~13.

従来氷上郡からの昆虫相の報告は全然無かつたように思われるが柏原高校の山本氏に依り次々と調査が進められここに其の概要が発表された詳しい種の記載は無いがコガネムシ科では兵庫県下での未記録種と思われる。アオアシナガハナムグリ、モンクロヒラタハナムグリ (之はトゲヒラタハナムグリの同定の誤りと山本氏に御聞きした)、ヒゲナガチャイロコガネが記録されている。

- ㊀ 1952, 野村鎮、日本及びその近辺のコブキコガネについて、桐羽学報 No. 2, pp. 24~34, Tof. I & II.

表題の示す通り日本及びその近辺のコブキコガネについての研究であるが其の中で神戸度の記録として次の種がある。

Melolontha frater frater ARROW オオコブキコガ

ネ 神戸 (VI, VII)

- M. japonica* BURMEISTER コブキコガネ 神戸 VII, VIII)、播磨、姫路 (VII)、氷ノ山 (VII)

なおこの研究で *M. satsumaensis* NIJIMA et. KINO-SHITA サツマコブキコガネは九州特産の種でないかとされ、沢田氏が神戸から記録された個体も *M. japonica* でないかと記されてある。筆者も沢田氏の検された標本は見た事がないのであるが一応神戸のフアウナから本種は除いて置いた方がよいのではないかと考える。

- ㊁ 1953; 岩田久二雄、奥谷禎一、永富昭、中根猛彦。氷ノ山の昆虫、兵庫生物 II, 3, pp. 121~125

1952年兵庫県生物学会主催の採集会結果及びそれ以外に行われた結果も合わせて発表されものであるがコガネムシ科に就いては11種が記録されて居る。その内 *Pleuraphodius lewisi*, *Pharaphodius chokaiensis* の2種は兵庫県からは始めてであると思われる。筆者自身の氷ノ山での採集結果では未だ他に得て居るいずれ機会を見て氷ノ山の甲虫相は発表したいと思つて居る。

- ㊂ 1953; 高橋寿郎、神戸産スジコガネ亜科甲虫に就いて、兵庫生物、II, 3, pp. 162~165

神戸産 RUTELINAE 19種に就いて記録した。

- ㊃ 1953; 村山醸造、松類穿孔虫防除に関する研究 (松樹害虫防除研究会報告、文部省科学試験研究報告 No. 6)

本書は村山博士を中心として昭和23~26年間に松類穿孔虫防除に間する研究が為された結果を発表されたものであるがこの研究の為の実験林が県下養父郡建屋村に設けられた。勿論松類穿孔虫の調査が主目的であるから松林が指定されて居るのでこの林内での甲虫類は割合少く、コガネムシ科は普通種のみしか得られて居ない。

- ㊄ 1954; 西村公夫、藤ヶ棚牧場の食糞性コガネムシについて(第2報)、兵庫生物、II, 4/5, p. 225

兵庫県神崎郡大山村追上にある藤ヶ棚牧場で採集した糞虫類14種 (内1種は種名未決定) の記録であるが現在では独立の科として(勿論広義の糞虫ではあるが)扱われて居るセンテコガネ、オオセンテコガネの2種もふくまれて居る。*Aphodius pusillus* HERBST の同定は再調査する必要が有りそうである。

- ㊅ 1954; 高橋寿郎、兵庫県産糞虫類に就いて (第1報)、兵庫生物、II, 4/5, pp. 232~236

兵庫県下で記録されたもの及び採集したものの糞虫類を記録した。もつとも神戸附近以外は調査が徹底して居らぬので第1報とした。

以上で文献に依る兵庫県産コガネムシ調査研究の経過を見て来たが始めに記した如く何分貧弱な筆者の文献に依つたものであるから不十分な結果に終つてしまつた今後引き続きこの仕事を為し他日より完成に近いものをつくりたいものだと考えて居る。

なお日本の昆虫学史に関する文献には次の如く良いものがあるので参考迄に其のいくらかを記して置く。

1. 三宅恒方、昆虫学汎論、下巻(1937)。
2. 日独文化協会、シーボルト研究(193) 8。
3. 村山謙造、Dr. Johan J. Rein の採集旅表、昆虫研究、II, 1, pp. 14~18 (1938)。
4. 上野益三、日本生物学の歴史、教養文庫(1939)。
5. 上野益三、日本生物学史の構成、あきつ、III, 1, pp. 1~1419 (41)。
6. 東光治、日本昆虫二千六百年史、宝塚昆虫館報、No. 5 (1941)。
7. 白井光太郎、日本博物年表(1943)。
8. 江崎悌三、日本昆虫学史話(1~5)、虫・自然、No. 16~20 (1947~8)。
9. 上野益三、生物学史雑話、生理生熊、I, 1~4 (1947)。
10. 江崎悌三、日本昆虫学史話、江戸時代篇、新昆虫、V~VI, 3~1231 (1952~3)。
11. 日本学術会議・日本植物学会、ツェンベリ-研究資料(1953)。

(追 記)

本篇脱稿後前文に記して置いた芝川又之助氏の採集

された標本類の目録を戸沢信義氏の編で“紫水遺稿”の別巻として発行されたものを入手するを得たのでここに紹介して置く。芝川氏の採集をされたのは1903年前後からで当時の採集地は主として芝川氏の別邸のあつた須磨、甲東村大市である。同氏の標本は長く同氏別邸に藏せられて居たのを鈴木元次郎氏が整理し、戸沢氏が管理して居られたが1946年宝塚昆虫館に寄贈せられ今もなお同所に保存されて居る。

この紫水遺稿別巻は戸沢信義氏の編で芝川家所蔵昆虫標本目録は283頁にわたり鈴木元次郎、福貴正三、玉沢修三郎氏などに依り同定せられて居る。発行年度は昭和11年(1936)である、コガネムシ科は44種記されてあるが産地の明記の無いもの、台湾、満洲などもふくまれて居る。兵庫県関係は次の7種のみで別に珍しい種は無い。

Onthophagus viridius HAROLD コブマルコガネは *O. atripennis* WATERHOUSE と学名はなると思われる(須磨)。オオフタホシマダコガネ(須磨)、サクラコガネ(鳴尾)、学名は *A. daimiana* である。セマグラコガネ(須磨)、チャイロコガネ(甲東園)、コアオハナムグリ(甲東園)、アカビロウドコガネ(須磨)。

(July—1954)